

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 20 日現在

機関番号：32697

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21320015

研究課題名（和文） シンハラ資料を用いた後期パーリ仏教文献の研究

研究課題名（英文） Study of the Post-canonical Pali Literature in Comparison with Sinhalese Material

研究代表者

松村 淳子（MATSUMURA JUNKO）

国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授

研究者番号：10239080

研究成果の概要（和文）：パーリ文献ないし上座仏教研究にとって、土着の文献資料はこれまで各上座仏教国の外ではほとんど研究されてこなかった。日本の場合は、ビルマ語研究者によるビルマ仏教史については、勝れた研究と翻訳が出されているが、シンハラ語仏教文献については、ほとんど知られていない。しかし、スリランカの中世期（12～15世紀）には、スリランカの仏教徒により、パーリ語だけでなくシンハラ語による仏教文献の著作が盛んに行われるようになり、その時期に、ビルマやタイにも強力な王国が出現して、こぞってスリランカから、正当な仏教としての、スリランカ上座仏教を取り入れた。このスリランカ国内の仏教研究の最盛期のシンハラ語による著作には、パーリ文献の翻訳、語釈があり、また独自の著作も作られた。これらの翻訳や語釈、解釈本は、その当時のスリランカのパーリ文献の読みと解釈を伝える資料として、非常に有用であることが明らかとなった。また、パーリ文献でも、アッタカターには次第に大乘的な色彩が見えてくることが指摘されているが、中世期のシンハラ仏教文献には、パラークラマバーフ1世王による、保守的マハーヴィハーラ派上座部への仏教統一後も、それまでに伝えられ、民衆の中に入り込んだ北伝・大乘的要素が、残っており、現地調査により、北伝的・大乘的説話が寺院の壁画に描かれ、また一般のスリランカ仏教徒にも語り伝えられ生きていることがわかり、我々が抱いていた上座仏教のイメージが実際とは相当に異なることが洞察することができた。収集した資料で入手困難なものや、寺院壁画はHPで順次整理公開して、研究者の利用に供する。

研究成果の概要（英文）：It has been found that, so far, in the study of Theravāda or Pāli Buddhism, the indigenous literature of Theravāda Buddhist countries has been little studied outside of each country. As for the Sinhala Buddhist literature, except for the overview of Godakumbura's *History of the Sinhalese Literature*, it is also not an exception. However, in Sri Lanka in the Middle Ages (12th to 15th century), literary activities were enthusiastically carried out by the Sinhalese Buddhists, and so the translation of the Pāli aṭṭhakathās, Pāli-Sinhalese word lexicons (*sannaya*, *gātapadaya*, etc.), and also the original compositions on various topics were made. In this research project, the focus was concentrated on the following works, the *Saddharmaratnākara*, the *Nikāyaśaṃgrahaya*, and the *Saddharmākārikāra*. Through the textual and historical studies of these texts, it was confirmed that the salient traits of Northern or Mahāyana Buddhism can be seen, traits which had once been introduced and had flourished in Sri Lanka, even though officially it was to have been wiped out by the Saṃgha Reunification in the 12th century. In addition to these studies, on trips to Germany for the purpose of research, we were able to

create a list of more than 1,000 old Sinhalese printed books (published from the end of 1800' century to the mid-20th century) kept in the University of Göttingen's library, which make up part of a collection by late Professor Heinz Bechert. Also, through research trips in and around Sri Lanka, we could obtain further books which seem available only on the island, and we photographed of mural paintings of Buddhist narratives in the old temples. Among them were found pictures of stories not included in authentic Pāli canonical literature, but, nevertheless well known in the Northern Buddhists. The numerous photographs taken have now been analysed, and organized, and uploaded to the Website given below.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2010年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
総計	5,700,000	1,710,000	7,410,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学

キーワード：仏教学・仏教史全般、上座仏教、中世シンハラ文献、仏教説話、シーハラ・アッタカター、スリランカ仏教美術、スリランカ大乘仏教

1. 研究開始当初の背景

2007~2008年度の基盤研究(C)で、「シンハラ資料を用いたマハーボーディヴァンサの研究」(課題番号10239080)を行ったのは、ドイツにおける博士課程での『ラサヴァーヒニー』研究以来、後期蔵外パーリ文献の中に、古いシンハラ語で書かれたという伝承が、まだ残っているのではないかと思われる箇所を見出しており、中でも「ヴァンサ」と名の付く、半歴史書類(lexicographical literature)には、「昔、(スリランカの)島の言葉で書かれた本書を、古い師匠達の伝えるところをもとに、パーリ語に訳されたが、不十分な点が多いので、より良い文章で書き改めるものである」というような序文が、よく見られる。時代から見て、それほど古い伝承が、中世期まで伝えられていたとは普通考えにくく、特に欧米の研究者は懐疑的であった。しかし、これらの文献の重要性について認識していたのは、スリランカ国外の研究者では、近年では故ハインツ・ベッヒェルト教授をおいてはなかった。ベッヒェルト教授は1960年代の若いころに、上座仏教国を訪ね、できうる限り多くの、これら土着の文字、言

語で書かれた写本や刊本を集め、自らも研究したが、あまりに膨大な資料の多くは手つかずのままであり、またこれらの資料を使った研究は、ベッヒェルト教授に学んだ学生のうちでも数は少ない。シンハラ語資料の重要性が知られるには時間が足りなかったことと、シンハラ語の習得が非常に困難を伴うものだからである。

2. 研究の目的

パーリ仏教文献は、イギリスに1881年に設立されたPali Text Societyがローマ字によるテキストの出版、英訳や辞書の出版を手掛け、テキストについては、シンハラ文字、ビルマ文字、クメール文字の写本や、初期の出版本を用いて、拙速でも研究者の利用のために次々と出版された。しかし、その方法は校訂者の力量と考え方、そして用いた資料がそれぞれ異なることもあり、各テキストの再校定が必要な時期に来ている。とくにスリランカは、他の上座仏教国と異なり、紀元前3世紀という古い時代に、仏教を正式にインドから取り入れたこと、またその担い手であるシンハラ人は、ガンジス河流域のインド・アーリ

ヤン語族の入植者によって形成されており、シンハラ人の文化には、仏教以外のインドの言語文化が深く刻印されていた。とりわけ、中世期には、インドとスリランカの仏教徒の交流が盛んで、シンハラ人仏教徒がサンスクリット語の文法や韻律学をも学んだ。それはシンハラ文字による写本と、インド・アーリヤン系ではないビルマやタイのテキスト伝承の違いに現れている。つまり、インド・アーリヤン文化を持たない、上座仏教国では、かえって、学問僧等が文法や韻律の知識によって、テキストを編集しなおしたところが多々見られ、読みやすいと言われるが、伝承的には、根拠のない **amendment** があり、古いインドの土着語や、正規系でない韻律、仏教サンスクリットや、ヴェーダ語にも遡る可能性のある読みが、単なる誤謬として扱われている場合が多い。また、スリランカに仏教がもたらされた後、聖典は口承によって伝えられたが、注釈は土地の言語によって伝えられ、それは総称して「シーハラ・アッタカー」と呼ばれて、伝承によれば書写されて伝えられていたが、それを整理しパーリ語に書きなおす作業が、ブッダゴーサをインドから招いたことを嚆矢として7世紀のダンマパーラによるパーリ語化ごろまで続いたことがわかっている。その後、この翻訳事業を通じてパーリ語を学んだシンハラ仏教徒も、聖典の注釈以外の、歴史書や説話集などを、古い伝承をもとに上座仏教国の共通語としてのパーリ語に翻訳することで、専門の僧侶の利用に供するとともに、一般在家信者のために、シンハラ語での翻訳や解説書、アンソロジーなどが盛んに書かれた。しかしながら、ドイツのガイガーを除けば、パーリ仏教文献研究者は、パーリ語だけを読み、時代的にも遅いシンハラ語仏教文献についての研究は、ほとんど等閑に付されてきた。しかし、南方仏教国で仏教が最も反映した時期のローカル言語による文献は、写本よりも古い伝承を伝えており、その研究はすでに出版されたパーリ文献の解釈、あるいは失われた詩句、そして、北伝の影響をまず文献的証拠として見出すこと、それを壁画など美術研究者、考古学研究者とのお互いの協力の元、発見・保存し、また今後の研究者のために、成果をわかりやすく整理し、残すことが急務であると考えた。

3. 研究の方法

植民地時代を除いて、東南アジアの上座仏教国の資料を精力的かつ網羅的に収集したのは、ドイツ・ゲッティンゲン大学教授となった、故ハインツ・ベッヒェルト博士を凌いだ学者はいないであろう。彼は、1960年代、大学助手時代に、これらの国々を歴訪し、ドイツの図書館に、これらの書籍や写本を集めた。それらは彼が勤務した、ハイデルベルク

大学やゲッティンゲン大学に保管されたが、その後も入手の機会があるごとに、その所蔵と整理が行われていた。博士の死後、それらの蔵書は、大学図書館の所蔵能力、その他の事情により、一部はウィーン大学図書館に遺贈され、故人の私的所蔵コレクションは韓国に売却されるなどされている。そのため、所在を突き止めるのが困難になる一方であるが、まだ、一群の文献が、ゲッティンゲン図書館に電子カタログ化されないまま、残されているので、その調査を行った。この文献は、主要なものをできる限り複数本集めていたベッヒェルト教授のお蔭で、質の高いものであり、ゴードクンブラの『シンハラ文学史』に名前の挙るものは、ほとんど含まれている。現在のゲッティンゲン大学の Oberlies 教授の許可と、スタッフの協力により、これらの古い書籍の厳密なカタログ化の前に、まずは、残っている、古いタイプライターと手書きによる整理番号順カタログ（頭に Jv という整理マークがつけられている）を、電子データを入力した。これを、書籍名、著者名等によって、今後検索可能なものにする予定である。短い滞在期間で、研究代表者が実見し、複写を許可されたものは、数は多くはないが、現在は忘れられて、スリランカで出版されていない諸本を発見し、その複写を得ることができた。これらは、著作権の問題がない限り、研究用に、順次、PDF化し、HPに掲載している。また、シンハラ文字のローマ字転写については、サンスクリットやパーリにない文字があることから、さまざまな方法を考えたが、やはり Geiger が文法書で示した方法が最も一般的であるので、それを採用すると、Windows 環境でそのローマ字転写ができるのは、Gandhari Unicode だけだということになる。ローマ字転写を試みたテキストも HP に挙げているが、最初は、私用領域の文字を使わない方法を考えたため、まだ一貫性のある転写方式にはなっていない。しかし、ローマ字転写方式により、シンハラ語の語彙集（サンスクリット、パーリとの対応をできる限り示す）の作成のためには、Gandhari Unicode が最適との結論に達した。

また、スリランカの調査では、かつての有名な書店がほとんど姿を消し、したがって古い刊本を手に入れることは非常に難しくなっていることがわかった。しかし、むしろ地方の寺院や博物館には、単発的に残っていることがあり、譲り受けることができたものもある。また、スリランカの地形地理を知ること、主にスリランカの古代に作られたアッタカー類の解読に非常に有益であることもわかる。

4. 研究成果

(1) 3年間の研究成果としては、1000件以

上のシンハラ語仏教文献のリストを作成したことで、そのうち、スリランカ中世期に上座仏教界で中心的な役割を果たした「林住派」に属する学僧の主要な著作のいくつかを入手し、PDF化して、新しく作成したHPに公開したことが挙げられる。これを元に、今後の研究者が必要な文献を入手する基礎を作ることができた。

(2) 上座仏教が12世紀にパラクラマバーフ1世王により、保守派のマハーヴィハラ派に統一されたことにより、それまでに存在した北伝的あるいは大乘的要素が一掃されたという学会の通念に対して、これらシンハラ語資料に、大乘的要素が色濃く残っていることが判明し、またそこから、タイやビルマに、その一部が伝えられたことを明らかにした。

(3) 特に、ジャータカの中でも重要な、投身餓虎物語と、燃燈佛授記物語を、スリランカから大乘仏教文献にわたって、ほぼ網羅的に比較することにより、系統的・論理的研究の方法を見出し、この二つのジャータカの意味と地域性を明らかにした。

(4) スリランカの仏教関連遺跡の調査により、古い伝承の正確さを確認するとともに、後代にインド等から導入されたジャータカや仏伝要素を、壁画や石像の中に見出すことができた。特に、ポロンナルワ時代に建立されたティヴァンカピリマゲ寺院、キャンディやヤーパワフ周辺の、ダンバデニヤ時代の寺院壁画の写真を撮ることができ、好まれたジャータカの他に、スリランカ独特の16か所の仏陀訪問地の伝説等、スリランカ仏教の特色の新たな側面について、画像と文献の両面から明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

① 松村 淳子 "The Vyāghrī-Jātaka known to Sri Lankan Buddhists and its Relation to the Northern Buddhist Versions," 『印度学仏教学研究』58巻3号 2010, pp.1164-1172. (査読有)

② 松村 淳子 "The Sumedhakathā in Pāli Literature and Its Relation to the Northern Buddhist Textual Tradition," 『国際仏教学大学院大学紀要』14号, 2010, pp.1-35 (査読無)

③ 清水 洋平・舟橋 智哉, 「Wat Ratchasittharam が所蔵する貝葉写本—Phra Pariyatti School 内の写本調査から—」『パリー学仏教文化学』第23号, 2009, pp.93~114 (査読有)

④ 清水 洋平・舟橋 智哉, 「タイ王国ベップリー所在寺院ワット・ヤイ・スワンナーラームの経蔵調査」, 『印度学仏教学研究』, 第59巻第1号, 2010, pp.359(169) - 364(174) (査読有)

⑤ 清水 洋平 「タイ王国 Wat Ratchasittharam 所蔵のクメール文字パーリ語貝葉写本について」『佛教学セミナー』, 第91号, 2010, pp.41 - 54 (査読有)

⑥ 清水 洋平 「タイ王国ワット・ヤイ・スワンナーラーム寺院の経蔵と仏典写本」, 『アジア民族造形学会誌』第10号, 2010, pp.19~31 (査読有)

⑦ 松村 淳子 "The Story of Dīpaṃkara Buddha Prophecy in Northern Buddhist Texts: An Attempt at Classification," 『印度学仏教学研究』59巻3号, 2011年3月, 1137-1146 (査読有)

⑧ 松村 淳子 「善知識彌伽—『華嚴經入法界品』原典についての一考察—」『首届中国華嚴國際學術研究會議論文集』2011年10月, pp.89-100 (査読無)

⑨ 松村 淳子 "An Independent Sūtra on the Dīpaṃkara Prophecy: Tibetan Text and English Translation of the *Ārya-Dīpaṃkara-vyākaraṇa nāma Mahāyānasūtra*," 『国際仏教学大学院大学紀要』15号, 2011年10月, pp.81-141. (査読無)

⑩ 松村 淳子 「仏説菩薩投身餓虎起塔因縁経」『いとくら』(『東アジア仏教写本研究拠点の形成』ニュースレター) 7号, 2011年12月, pp.3-6 (査読無)

⑪ 松村 淳子 "The Formation and Development of the Dīpaṃkara Prophecy Story: The *Ārya-Dīpaṃkaravyākaraṇa-nāma-mahāyānasūtra* and Its Relation to Other Versions," 『印度学仏教学研究』63巻3号, 2012年3月, pp.1204-1213 (査読有).

⑫ 松村 淳子 "A Unique Vyāghrī-jātaka Version from Gandhāra: The *Foshuo pusa toushen (yi) ehu qita yin yean jing* 佛説菩薩投身(飴)餓虎起塔因縁経 (172)," 『国際仏教学大学院大学紀要』16号, 2012年, pp.49-68 (査読無)

〔学会発表〕(計 8 件)

① 松村 淳子 "Two Apocryphal Jātaka Stories in Sri Lanka: On their connections to Northern Buddhist versions with special reference to the Tamamushinozushi of Japan."

[招待講演会] ハンブルク大学 アジア・アフリカ研究所, 2009年4月29日, ハンブルク大学(ドイツ)

② 松村 淳子 "The Vyāghrī-Jātaka Story Known in Sri Lanka and its Relation to the Northern Buddhist Versions,"

第14回国際サンスクリット学会, 2009年9月3日, 京都大学(京都)

③ 松村 淳子 「投身餓虎本生活の諸伝承—特にスリランカにおける伝承とそのソースについて—」日本印度学仏教学会 第60回学術大会, 2009年9月8日, 大谷大学(京都)

④ 松村 淳子 "The Vyāghrī-jātaka from Gandhāra," [招待講演] Collegium Turfanicum 47, Akademie der Wissenschaften Berlin(ドイツ) 2010年5月5日

⑤ 松村 淳子 「燃燈佛授記物語の諸伝承—燃燈佛の出生物語の検証—」日本印度学仏教学会 第61回学術大会 立正大学(東京) 2010年9月10日

⑥ 松村 淳子 "A Unique Vyāghrī-jātaka Version from Gandhāra: The *Foshuo pusa toushen (yi) ehu qita yinyuan jing* 佛說菩薩投身(餓)餓虎起塔因緣經 (T172)," The 16th Congress of the International Association of the Buddhist Studies, 2011年6月23日, 台湾法鼓山佛學研究所 (台湾)

⑦ 松村 淳子 「燃燈佛授記の単独經典について」日本印度学仏教学会 第62回学術大会, 2011年9月8日, 龍谷大学

⑧ 松村 淳子 「善知識彌伽—『華嚴經入法界品原典』についての一考察—」中国首届華嚴學國際學術檢討會 (招待), 2011年10月16日, 陝西師範大學 (中華人民共和国)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕該当せず

〔その他〕

ホームページ

<http://www.padmaraja.net/>

研究業績の PDF、スリランカ調査日記、寺院壁画等の調査記録を順次掲載している。また入手困難となった古刊本の PDF、シンハラ語仏教文献の Unicode Text, 現存古刊本のリストを掲載していく。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松村 淳子 (MATSUMURA JUNKO)

国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授, Ph. D.

研究者番号: 10239080

研究の統括, シンハラ語仏教文献の整理, スリランカと北伝仏教の説話文学の比較研究。

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者

清水 洋平 (SHIMIZU YOHEI)

大谷大学真宗総合研究所研究員 (博士(文学))(大谷大学非常勤講師, 神戸国際大学非常勤講師, 名古屋大学非常勤講師)

研究者番号: 50387974

(4) 研究協力者

福西 ローラ (FUKUNISHI LAURA)

(M.A. 神戸市外国語大学他非常勤講師)

ロチェスター大学古典学出身で, 日本語には堪能で, 研究代表者の英語論文の添削は最も経験が深く, 研究成果を世界に発信するためにインパクトある英文の書き方を, 添削を通じてご教示いただいた。

Dr. Petra Kieffer-Pülz

(ドイツ・ハレ大学講師)

パーリ律を専門とし, シンハラ文献も扱うため, 相互に研究協力を続けている。

Dr. Reinhold Grünendahl

(ドイツ・ニーダーザクセン州およびゲッティンゲン大学図書館専門研究官)

日本で得られない古い図書の探索について協力をいただいた。

Dr. Michael Radich

(ウェリントン大学 Senior Lecturer)

中国語文献に堪能な仏教学者で, 論文や学会発表原稿の添削ならびに内容についてもアドバイスや協力をいただいた。

Dr. Vladislav Lier

(ゲッティンゲン大学インド・チベット学
研究室研究員)

専門は異なるが、シンハラ文字が読める、
数少ない研究員で、同大学所蔵のシンハラ
文字出版本のリスト作成の協力をしていた
だいた。

Prof. Dr. Thomas Oberlies

(ゲッティンゲン大学インド・チベット学
研究室教授)

研究代表者が必要とする資料のコピーや、
ゲッティンゲン滞在中の研究の便宜を図っ
ていただいた。また研究の幅はヴェーダか
らパーリ語までと広く、ジャータカ・ティ
ーカーの研究を共同して行っており、本研
究の成果の一部にも反映されている。

Dr. Alexander Zorin

(ロシア・アカデミー図書館学芸員)

専門はチベット文学。チベット語訳しか見つ
かっている『聖燃燈仏授記経』の英訳につ
いて、詳細にわたって点検とアドバイスをい
ただいた。